

2012 年度報告書（研究員）

氏 名	入江恵子
職 位	研究員
<p>研究概要</p> <p>医療の介入を受けることにより、身体の逸脱の度合いを増す経験をした当事者が構築する周囲の社会や人との関係を明らかにした。具体的には、1. 薬害 HIV 感染被害の当事者が医師とのあいだに築く関係性について、2. インターセックス/DSD における名称変更に見られる身体への回帰といえる現象について、3. 医療による身体の介入によって「逸脱」が深められる現象についての理論的構築、の以上の3点について明らかにした。結果として、1. 薬害 HIV 当事者が医師との間に築く関係性は、既存の医師患者関係を越え、それぞれの親密圏に影響を与えあうものであることが分かった。また、2. 不安定な社会情勢を背景に、インターセックスにおける DSD への名称変更は、一転して身体への回帰といえるものであることが分かった。最後に、3. 医療によって逸脱が増幅される経験において、それぞれの疾患ごとにおける理論的構築の可能性を示唆した。</p> <p>なお、1、3については学会報告ののち論文としてまとめ、2については GCOE のワーキングペーパーとして論文を提出している。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p><論文></p> <p>"Beyond "Physician-Patient" Relationship: A Case study of HIV infection due to tainted blood products in Japan," in West East Journal of Social Sciences: WEI International European Academic Conference Proceedings 2012, 19-32.</p> <p>「インターセックス/DSD の名称の変容と身体への回帰」GCOE ワーキングペーパー（印刷中）</p> <p><報告></p> <p>「Perspectives on Deviance Caused by Medical Treatment: Cases of HIV and DSD (Intersex)」(日本社会学会第 85 回大会、2012.11.3、札幌)</p> <p>” Beyond “Physician-Patient” Relationship: A Case study of HIV infection due to tainted blood products in Japan,” (West East Institute 2012 Zagreb Conference, 2012.10.15, Croatia)</p> <p>“Perspectives on Deviance: As a Result of Medical Intervention to Body,” (International Conference for Academic Disciplines 2013 Las Vegas Conference, 2013.03.20, Las Vegas)</p> <p><外部資金></p> <p>研究活動スタート支援、課題「医療の介入による逸脱増幅に関する研究—性分化疾患と薬害 HIV 感染被害を中心に—」助成期間 2012 年 8 月 31 日～2014 年 3 月 31 日</p>	